

2018 (平成30)年

3月号

慈悲

慈……いつくしむということ  
悲……こころをつくすということ

s h i n k o h

# 心耕

6 6 2 2

西光寺マニ

## 今月の行事

○十二日(月)常例法座 午後一時より

※住職が語ります。

○二十(火)・二十一(水)・二十二(木)

彼岸会 三箇全と午後二時から

※十二日、二十四日の両日各家庭への彼岸まじりの(中に詳細)中(詳細)の案内がまわります。

・池上寺の写経会 九日(金) 午後一時より

・三宮への勉強会 十二日(月) 午前十時半より

・八日(木)本堂仏具のお磨き 午前十時より

※お彼岸を前にスエけた仏具を、ご力に磨きあげます。

○十一日(日)境内の草刈り 午前八時より

※去年の十月以来で、草刈りまだあまり終わっていません。軽く扱く程度で済むと思っております。

毎朝六時半 御晨朝

正信偈・御和讃・御文章  
を讀んでいただきます。朝も早くお祈りし、なほ、暖かさも戻って来ません。

31日(土) 花まつり 午前十時 午後二時

夏のオリンピックとは異なり、冬のオリンピックの競技は九州生まれの私にとっては未経験のものばかり。サーカスを見ていっしょに楽しむので美女美女軍団と「ヒロ」の役回りに丁度良かった。

今朝と見て、カーリングくらいいまだ住職でもできませんよ、と聞いてくれる人なんて、とんでもない。お教を決めて思った所に重い石を滑らせるなんて、といたえたら、「違」の、氷を掃く方と云われて、「そだねー」。納得。でもカーリング娘、「そだねー」じゃ「パン」。皆可愛いいな。ヤダネー、ソジャネー。言われないよう、(笑)。

ほんがんに  
本願をききて 疑うところなきを 聞というなり

《一念多念文意》

しんらんしょうにんはちじゅうごさい はる ほうねんしょうにん  
親鸞聖人八十五歳の春、法然上人のもとにおられたこ  
ろの兄弟子であった隆寛律師が著された「一念多念分別事」  
を註釈され、「一念多念文意」として関東の門弟に送られ  
ました。その末尾には

『おなかのひとびとの文字のころもしらず、あさましき愚痴きはま  
りなきゆゑに、やすくこころえさせんとて、おなじことをとりかへし  
とりかへし書きつけたり。こころあらんひとはをかしくおもふべし。  
あざけりをなすべし。しかれどもひとのそしりをかへりみず、ひとす  
ぢに愚かなるひとびとをこころえやすからんとてしるせるなり』。  
とあります。この末尾文は、同じ兄弟子聖覚法印の『唯信抄』  
を註釈された『唯信抄文意』にもあります。聖人の人々  
に向かわれる姿勢の潔さが今の世に至るまでも伝わって  
きます。

こんげつ ことば  
今月の言葉は、真実の教を願さばすなはち「大無量寿経」  
これなり、と示される無量寿経に願成就文（諸有衆生  
もんごみょうごう しんじんかんぎ ないしいちねん かしんえごう がんしょうひこく  
聞其名号 信心歡喜 乃至一念 至心回向 願生彼国  
そくとくおうじょう じゅうふたいてん あら かいしやく  
即得往生 住不退転）と表わされるところを解釈された  
一部です。

ほんがんに ほんとう ねが  
本願。本當の願い。それを「ききて」ということは、本願  
は私から発しているものではなく、私の方に向かっている  
ものということだ。

うたが わたし  
疑うところがない、私のことではありません。本願に疑  
うところがないのです。

もん き しんしゅう ほんぶ しんじん  
聞。聞くばかりです。真宗、凡夫にとってまことの信心は  
ただ本願を聞くばかりです。

ほうざ じゅうしやく くわ はな ひろ はなし  
十二日の法座で住職が詳しく話します。広ーい話です。

ナンマンダブナマンダブ、

# 穢身

最近の葬儀  
の会場に行き  
ますと、「浄土

浄土は真の浄土では  
お浄めの塩を  
用いませぬ

真宗はお清めの塩は用いませぬ」との看板が多く掲げられるよ

うになりました。死を穢れとみることはない仏教に携わる方々

の努力の賜物でしょう。しかし、穢れとは一体どういう状態を

いうのでしょうか。死でしょうか、出産でしょうか。血に関するこ

とででしょうか。

親鸞聖人の和讃に

超世の悲願ききしより われらは生死の凡夫かは

有漏の穢身はかはらねど こころは浄土にあそぶなり

(阿弥陀如来の世に越えた願いを聞かせていただいでから

我々は生死に迷う凡夫ではありません。煩惱に染まるこの身に

は変わりませんが 心は極楽浄土を思わせていただくのです)

と、あります。

穢れを外に見ていくではありません。煩惱にまみれた我が

身に見るのです。この和讃を受けて石見の浅

原才市さんは

有漏の穢身は変わらねど 自力が他力にし

てもろて 浄土で遊ぶ 南無阿弥陀仏

と味わいました。



自己ベスト  
超えし宮原に  
インパクト  
残念な結果だった  
これいかに  
若住取

# こんなところに 仏教用語

用教仏近  
語を紹介  
していま  
す。

# 会通

昔々、一世紀、二世紀頃で  
しょうか。シルクロードを伝  
つて中国に仏教が伝わりま

した。そして様々な經典の漢訳が始められました。

しかし、ここで問題が起きました。インドでお

釈迦様が亡くなられて数百年が経っています。お釈迦様の説き方は、

対機説法。人に応じて説き方を変えました。説法を聞いた人々がお互

いに言われたことを確認すると、中には矛盾したような説き方もあ

ります。時を経て変化していったもの、整理されたもの、お釈迦様当

時の言葉が残されていたり・・・これらが時を同じくして中国に

伝来したのです。中国の人々は、文字に起こされたものを絶対視する

傾向があります。

「すべて仏陀が説かれたものだから間違いないはずだ。矛盾して

いる表現があるけれどもどれも仏陀が説かれたものだ」ということ

で、表現の違う一方を切り捨てるのではなく、調節し受け入れていく

方法を取ったのです。これを会通と言います。「よく理解して渋滞し

ない」という意味があるそうです。

現代は違うものを切り捨てる時代になりました

た。会通という言葉は、經典の解釈方法だけでは

なく、人間関係、国家関係などでも取り入れたい言

葉ではないでしょうか。



住職多感

丹沢のどこかにおいしい蕎麦を出す山小屋があるというので、好き者が集まって山道を歩いた。飛び切りの美人の山ガールがひとり、見とれているうちにすつかり道に迷い、危うく遭難するところだった。好き者たちは皆お坊さんだったので僧難か、とダジャレで笑いたかったようだが、ちよつと昔だったら「狐に化かされた」というだけの噺なのかも知れない。

仮想通貨。さつぱり訳が分からないので、木の葉っぱ一枚頭の上のせて狐が来るつとトンポを切れば、さつそうと背広姿の営業マン。下げたアタッシェケースには札束がぎっしり。木の葉っぱでも億円の札束。信じ込んだ者同士の間では立派に通用するので。という風に理解することになっている。

でも狐は人を化かしても命をとつたり身上を潰したりはしないが、人が人を化かし始

めるととんでもなく恐ろしいことになってしまう。化かす手口は美辞麗句と都合のいい数字を組み合わせた手前勝手な合理性。これにまた人は弱いんだな。

極楽を阿弥陀仏が作られたときまず願われたのが、地獄も餓鬼も畜生もなくその名さえ聞こえないという願いだっただ。地獄というのは社会の相。餓鬼というのは腹膨れれば膨れるほどに飢えが増し、腹を満たすことしか考えないもの。畜生というのは上意下達でしか思考・行動が出来ないもので、餓鬼・畜生ともに自らを省みることが決してできない。その畜生と餓鬼だけで作り上げた社会の相が地獄なのです。仏教が少欲知足を説き、吾れ唯足るを知ると手水鉢に刻んだのも地獄に向かう人の恐ろしさを知っているが故なのです。

原発を持たねばならないほどに一体何が欲しいのだ。核を持たねばならないほどに一体何を争わねばならないのだ。人の悲しみを土台にしてまで一体何が欲しいのだ。

四月の予定

・十二日(木) 常例法座

・二十二日(日) 日曜法座

・池上ささの 写経会 十三日(金)

・三島ささの 勉強会 四日(水)

・草刈り 八日(日) 午前八時

※第二日曜や過ぎるとごみ、三日の草刈りのときに相殺します。

・御晨朝 午前六時半より

発行

浄土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇一〇〇二四

千葉県市原市根田

七三三二一

TEL. 0436-22-7412

FAX. 0436-24-1652

HP <http://saikohji.net>

MAIL [saikohji@hb.tpl.jp](mailto:saikohji@hb.tpl.jp)